

もばら



茂原市マスコットキャラクター
モバリん

自治基本条例

だより

No.9

自ら考え、自ら参加し、ともに作りあげていくという「共生」と「共創」のまちづくりを進める上で、市民、行政、議会などの「まちづくりの担い手」が共有する基本的なルールである「自治基本条例」について検討しています。

おじやま します！

Vol.5
Mobaramirai応援団



「子どもたちに元気な茂原を伝えたい、子育てしやすい茂原にしたい。そして、その輪を広げたい」と、ホットにパワフルに誕生した若者のグループがあります。

Mobaramirai応援団です。

5月5日にワクワクするようなイベントが企画されています。3月2日のミーティングにおじやましてお話を伺いました。若者のすばらしい行動力にもワクワクしました。



5月5日のこどもの日に 茂原まるまるマルシェ を企画



Mobaramirai応援団
齋藤由子代表

- ・子どもたちに元気な大人の姿を見せたい。地域文化を伝えたい。
- ・子どもたちの五感に訴えるような本物の力を体験させたい。
- ・元気な茂原、子育てしやすい茂原にしたい。
- ・おいしい米や野菜を作ってくれる農家を応援したい。

・生産者等からの情報発信と消費者の声を生産活動につなぐような交流の場がほしい。文化や芸術の発表の場がほしい。

・子ども達や大人達がワクワクするような活気のある場を創りたい。

そして、出店者・参加者の輪が広がって地域が元気になり、次世代に引き継ぐときはさらに活気ある循環になっていったら…。

代表の齋藤さんを初めとする若手メンバーの熱い思いが、5月5日のこどもの日に“茂原まるまるマルシェ”というイベントとして実現することになりました。

「マルシェ」というのはフランス語で「市場」。街の広場に農産物や食料品を持ち寄りカフェなども出て、生産者と消費者が交流をしながら買い物を楽しむというフランスの地方の文化だそうです。

グループ内でのミーティング、出店者への呼びかけ、経験者からの情報収集等々、仕事の合間をぬって精力的に活動を展開しています。

新しい試み…協働事業の提案

市民の会では現在、自治基本条例の検討をしていますが、その理念と実践が結びついていくような仕組みが必要です。

そして、自治基本条例の理念のひとつに、市民と行政の協働（コラボレーション）、市民参画のまちづくりというのがあります。

行政ではその実践方法のひとつとして「協働事業提案制度」を検討していました。これは、市民が地域の課題を解決したいという意欲のもと、主体的に事業の提案を行い、それぞれの役割分担をよく話し合いながら、課題解決に向けて取り組むというものです。

そんなとき、Mobaramirai応援団から、茂原市の現状の課題認識のもと、このイベントの申し出がありました。

これに対し、行政側では協働事業提案のパイロット（先進的取り組み）事業として進め、協働事業提案制度の正式採用に向けたと考えているとのこと。